

2023 年度入試向け大学院説明会（心理学研究科）FAQ 集

【課程・コース共通】

Q. 奨学金について教えてください。

A. 学生生活課 HP に掲載されている以下の資料を参照してください。

<https://www.doshisha.ac.jp/scholarships/graduate/list.html>

Q. 社会人入試制度はありますか？

A. 心理学研究科では実施しておりません。

Q. 社会人のため、前期課程を2年間／後期課程を3年間で修了することが困難です。

A. 長期履修学生制度があり、最長6年間在籍できます。

心理学研究科での履修において、職業を有している等の事情により標準修業年限（前期課程2年、後期課程3年）を越えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を修了することを希望される方は、所定の手続きがありますので、以下の期日までに京田辺キャンパス教務センター（心理学研究科）にお問い合わせください。

2023 年度入試（9月実施）に出願の場合 2022 年 7 月 28 日（木）まで

（2月実施）に出願の場合 2022 年 12 月 20 日（火）まで

（参考）https://www.doshisha.ac.jp/admissions_graduate/info/long_course.html

https://www.doshisha.ac.jp/admissions_graduate/info/graduate/psychology.html

Q. 推薦入試制度はありますか？

A. 学内推薦を含めありません。出身大学・学部を問わず、全員が所定の試験と口頭試問を含んだ面接試験を受験する必要があります。

Q. 前期課程だけ修了し、就職することは可能ですか？

A. はい、可能です。前期課程で修士号を取得して社会人となるケースもあります。一方、より高度な能力を備えた専門家となるためには後期課程での研鑽が求められるでしょう。

Q. 過去問題は入手できますか？

A. はい、過去1年分に限り、『同志社大学入学試験ガイド』で閲覧可能ですが、著作権の影響で可視部分が少なくなっています。すべての問題が掲載された過去1年分の過去問をご希望の場合は、事前アンケート（Microsoft Forms）に付属の請求フォームにてご請求ください。ただし、本学在学学生は直接京田辺キャンパス教務センター（心理学部）窓口で請求してください。

Q. 修士論文を提出しなければ修了できませんか？

A. はい。修士論文の執筆・提出は修了要件の一つですので、必ず提出が必要です。

Q. 修士論文は提出するだけで良いのですか？

A. いいえ、所定の試問を受けて合格することが必要です。

Q. 学外交流などはありますか？

A. 研究指導教員の方針により異なりますので、指導を希望する教員へお問合せください。

Q. 心理学研究科内の研究室間で交流はありますか？

A. 大学院生が利用できる共同研究室では、様々な研究室の心理学研究生と顔を合わせることができます。自然と研究室の枠を超えて交流ができるでしょう。

Q. 学術振興会への応募に対するサポートはありますか？

A. 授業で、応募に必要な研究に関する初歩をレクチャーしています。しかしながら、応募するのはご自身であり、それ相応の努力が必要になります。

Q. アルバイトの紹介はありますか？

A. 研究科として学外アルバイトを管理していませんが、希望する方には※TA（ティーチング・アシスタント）を依頼することもあります。

https://clf.doshisha.ac.jp/attach/page/FACULTY_DEVELOPMENT-PAGE-JA-27/165070/file/TA-leaflet.pdf

Q. 前期課程修了後の後期課程進学率と就職比率を教えてください。

A. 年度や社会情勢などによって大きく異なるため、一概には言えませんが、イメージとしては約半数ずつがそれぞれの進路を選択しています。

Q. 指導希望教員へ直接連絡する際の連絡手段を教えてください。

A. 心理学部・研究科 HP の教員ページよりメールアドレスを確認後、メールにて直接ご連絡ください。

<https://psych.doshisha.ac.jp/professors/>

Q. 指導希望教員が複数いる場合は、それぞれの教員に連絡しても問題ないでしょうか？

A. はい。出願までに必ず連絡を取ってください。

Q. 口頭試問を含む面接試験の内容について教えてください。

A. 面接試験は入学試験の一部ですので、残念ながら雰囲気や内容等について詳細を開示することはできません。「口頭試問」を含む面接試験口頭で提示される問題には、一定の心理学に関する知識や発想力などが必要になります。それに加え「面接」としての側面であるご自身について、また、心理学研究科で何を研究したいかを問われます。単なる「面接」ではなく「口頭試問」を含んだ複合的な面接試験である点をご留意の上、ご準備ください。

【前期課程 心理学コース】

Q. 心理学コースで公認心理師や臨床心理士の受験資格を得ることはできますか？

A. いいえ、できません。臨床心理学コースを受験してください。

Q. 心理学コースに入学後、臨床心理学コースへコース変更できますか？

A. いいえ、できません。臨床心理学コースを再度受験していただくことになります。

Q. 心理学コースに在籍し、臨床心理学コースの科目を受講することはできますか？

A. 一部の講義系科目は受講することができます。(実習科目等は履修できません)

Q. 私は研究指向ではなく、大学院入学後は研究するというよりは、勉強して心理学に関する知識をさらに獲得したいです。このような姿勢で充実した大学院生活を送れますか？

A. 本研究科では、勉学に励むことがベースとなりますが、さらに研究をしっかりと進めていただく必要があります。単純に勉強だけしたいという方は、本研究科に入学されたとしても充実した大学院生活を送ることは難しいと考えます。

【前期課程 臨床心理学コース】

Q. 他大学あるいは他学部からの進学は可能ですか？

A. 可能です。ただし、「公認心理師」の受験資格を得るには、学部で単位取得しておくべき科目があります。ご自身の履修科目がその条件に該当するかは、ご所属の大学や学部でご確認ください。

Q. 臨床心理学コースでは、留学生のみを対象にした入試を実施していますか？

A. いいえ、ありません。臨床心理学コースでは、すべての受験生に同一の試験を実施しています。

Q. 臨床心理学コースに入学後、心理学コースへコース変更できますか？

A. いいえ、できません。心理学コースを再度受験していただくことになります。

Q. 臨床心理学コースに在籍し、心理学コースの科目を受講することはできますか？

A. 大半の講義系科目を受講することが可能です。ただし、臨床心理学コースには数多くの必修科目があるため、時間割等の関係で、実際に履修できるのは限られた科目数になる可能性が高いです。

Q. 資格の取得だけを目的に進学しても大丈夫でしょうか？

A. 臨床心理学コースでは、サイエンティストとしての研究運用能力と、プラクティショナーとしての臨床実践力の両立を目指した教育プログラムを実施しています。従って、「実証的な研究に取り組み、かつ臨床実践にも参加したい」という志向性を有する方以外は、充実した大学院生活を送ることは難しいと考えます。